

# 政策へのコメント

会社を代表する意見ではなく、  
再エネ事業に関わる個人としての意見です。

2017年3月18日

川島悟一



自然電力

自然電力株式会社

# 1-1. 改正FIT法について①

## ◆ 新認定制度

- ・ 設備認定から事業計画認定への変更により、既存発電所も含めて、規制を強められたことは、再エネの質を高める意味でgood。
- ・ 特に、維持管理の不備で認定失効させられるのはgood。再エネコスト低減のため、FIT後にいかに多く発電するかが重要。

## ◆ 旧認定制度の経過措置（未稼働問題）

- ・ 未稼働をどれだけ失効させられるかがポイント。
- ・ 旧一般電気事業者が強い権限で申込みを無効化できるように政府の後押しがあってもよい。
- ・ 空いた接続枠の扱いなど、政府として接続枠の課題にもっと介入すべき。例えば、空いた枠を募集プロセスに組み込まず、買取価格の安い新規案件として割り当てる方針を出してもよい。

## 1-2. 改正FIT法について②

### 💧 買取価格

- ・将来の目標価格を示した点はgood。それに沿って買取価格を確実に下げていくことが重要。

### 💧 入札制度

- ・第1回の募集容量500MWは大き過ぎ。募集容量割れで価格が上限に張り付くだけ。価格低減効果は得られない。
- ・最初は、募集容量を絞って価格を下げ、その後に上限価格を抑えて、容量を増やすという考え方が必要。

### 💧 買取義務者

- ・送配電買取は、小売買取にした場合の制度・手続きの煩雑さを考慮すれば、妥当。再エネ電力が電力卸市場に流入する効果もgood。

## 1-3. 改正で対応されなかった課題

### 💧 価格低減前に案件が開発され尽された

- ・すでに太陽光も風力も適地は残っていない。FITの“価格低減”という役割を果たしていない。結果として、再エネ産業の質（コスト面も含め）が発展しなかった。

⇒案件をつくっていくために、系統の開放や規制緩和が必要。

### 💧 接続問題

- ・上位系統対策までして接続するべきではない。送電設備増強は、視野の広い系統対策検討に拠るべき。
- ・上位系統対策がなくても、送電設備容量を上回る時に発電所の出力抑制をかければ接続できる（欧州の連系ルール）。

⇒募集プロセスと未稼働案件の接続枠が整理された後、再エネが更に接続できるよう接続ルールの見直し、系統の開放が必要。

## 2-1. 電力システム改革について

### 電力自由化は、再エネを増やせるのか？

- ・再エネ電源による商品が提供され、消費者も選べるようになる。  
再エネ志向の消費者が多ければ、それだけ再エネも増えると期待。
- ・電力卸市場が機能することで、需要調整ができるようになり、再エネ発電量に応じた需要コントロールが可能になる。  
再エネ発電量に応じて市場価格が大幅に変化すれば、再エネ発電量に応じた需要調整が進み、再エネ電源比を高められると期待。

## 2-2. 電力システム改革について

### 💧 再エネ電源商品

- ・消費者が再エネ電源の電気を選べるようになる。
- ・すでに再エネ志向のプランも多数登場。

⇒FIT電気を選んでも、再エネは増えない。

非FITだと値段が高すぎて、難しい。

### 💧 非化石電源価値

- ・FITについては、原発や大規模水力などの他の非化石電源とは、別に取り引きされる。FIT電源の価値が市場で取引される。

⇒この仕組みでは、再エネ賦課金が下がるだけであり、基本的に再エネは増えない。

## 2-3. 電力システム改革について

### ◆ ネガワット（調整力公募・取引市場）

- ・化石燃料の焚き上げが減るので、再エネ電源比率は上がる。
- ・化石燃料発電所のLFC調整力の最低出力が減るので、再エネの接続可能量が増える。

### ◆ 連系線利用（間接オークション）

- ・先着順から市場価格の安い順に連系線が使えることに。つまり、再エネが最大限活用できる。再エネが増える。

## 2-4. 電力システム改革について

再エネの拡大を、電源側をFIT法、需要側を市場価格シグナルで進めていくという整理。

- ・ 電力システム改革で需要側から再エネ導入量を増やしてくためには、再エネ電力を市場に大量に流入させることが必要。
- ・ 現状では、FIT電力の太宗がみなし小売電気事業者買取となり、再エネがどこまで市場に投じられるか不透明。
- ・ ドイツでは最初から全量送配電買取で市場卸だったため、大きな乱高下が生じたが、需要調整のためのサービスも生まれた。



## 3-1. その他

### ◆ さらに案件をつくるための規制対応が必要

太陽光・風力 : 農地の利用（耕作放棄地やシェアリング）

小水力 : ダムの発電目的の貯水容量の増加

木質バイオマス : 林業の生産性向上、早成樹の採用

### ◆ コスト

- ・日本の建設業の生産性の低さ